

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(1学年)

学期	月	指 導 項 目	指 導 内 容	評 価 計 画	配当時間	
1 学 期	4	導入	○教科「人間と社会」のガイダンスを行う。	次の観点に基づき、評価する。 上段：育成する資質 下段：育成する能力 【2学ぶことの意義】 人生における学びの大切さ、学 ぶ面白さ、奥深さを知り、将来に 向けて主体的に学び続ける姿勢 をもっている。 ⇒自律 ⇒自己理解・自己管理能力 【3働くことの意義】 働く意義を理解し、自身の将来 を考えている。 ⇒責任、勤勉 ⇒キャリアプランニング能力 【6ネット時代】 携帯・スマホの問題点を踏まえ、 最適な使い方ができる。 ⇒規範意識、公德心 ⇒自己理解・自己管理能力 【8チームで活動することの意 義】 自己の特性をチーム活動に活か している。 ⇒社会連帯、共生 ⇒人間関係形成・社会形成能力 【12地域社会を築く】 自助・共助・公助の意義や姿勢が 身に付き、災害時に地域社会と 協働する力が身に付いている。 ⇒社会連帯、共生 ⇒人間関係形成・社会形成能力 働く意義や役割を理解し、将来 設計を考えている。 ⇒責任、勤勉、社会連帯 ⇒キャリアプランニング能力 ⇒課題対応能力	1	
		演習	○【6ネット時代】生活指導部＋1学年 ※テキスト使用 「携帯・スマホの使い方～連携先：((株) L I N E)」 →事前 問題点を踏まえ使い方を考える。 →事後 ワークシートを活用して振り返る。		2	
	5	演習	○【2学ぶことの意義】【3働くことの意義】※テキスト使用 進路指導部＋1学年 →進路適性検査を行う。		1	
	6	事前学習・体験活 動・ 事後学習	○【12地域社会を築く】※テキスト使用 総務部＋1学年 「防災訓練～連携先：地域自主防災会、日野市、消防署等」 →事前 防災訓練の目的・方法を学ぶ。 →体験 救護体験、炊き出し等を行い、「地域社会」で活動するこ とを体験する。 →事後 グループ内での討議、ワークシートの活用		1 4（奉仕体験 4） 1	
		7	事前学習・体験活 動・事後学習		○【12地域社会を築く】※テキスト使用 総務部＋1学年 「避難所運営ゲーム～連携先：日野市社会福祉協議会、大学生ボラ ンティア等」 →事前 ゲームの目的・方法を学ぶ。 →体験 「避難所運営ゲーム」を体験し、災害時に「地域社会」と 協力し都立高校生としてどのような活躍ができるかを考 える。 →事後 グループ内での討議、ワークシートの活用	3（奉仕体験 2）
	演習	○【8チームで活動することの意義】※テキスト使用 進路指導部＋1学年 「学生図鑑オープンキャンパス」進路指導部＋1学年 実施連携先：シンライン →演習 「大学」について学ぶ。 大学生から直接大学での学びや活動を聞き、大学での学びを考 える。学部などを知り、進路を考える。	2			
		演習	○【2学ぶことの意義】【3働くことの意義】※テキスト使用 進路指導部＋1学年→進路適性検査の結果を参考に、将来を考える。		1	
		事前学習	→事前 各自が、夏休みの体験活動の計画を立てる。 オープンキャンパスの計画を立てる。		1	
	2 学 期	8	体験活動		○【12地域社会を築く】※テキスト使用 生活指導部＋1学年 「ボランティア体験」以下の①又は②を行う。 →①生徒会や部活動で地域貢献活動を行う。 →②自分が在学又は居住している地域の社会福祉協議会等で募集 しているボランティア体験に参加する。日野市ボランティアセン ターをはじめ各市町村のボランティアセンター10カ所程度。（中 学校、小学校、学童保育、保育園、児童館ほか） ○オープンキャンパスに参加する。	4（奉仕体験 4）
		9	事後学習		→事後 クラス内で各自の体験を発表し、共有する。	1
10		事前学習・体験活 動・事後学習 演習	○【12地域社会を築く】※テキスト使用 生活指導部＋1学年 「地域清掃活動～連携先：自治会」学校周辺で清掃活動を行う。 ○【逆引き大学辞典】進路指導部＋1学年 実施連携先：廣告社 社会で求められる力を理解し、文理選択・学問分野など、進路研究 の進め方について考える。	3（奉仕体験 2）		
11		面接	2年生での選択科目の確認 進路の確認を行う	2		
12		事前学習・体験活 動・事後学習	○【12地域社会を築く】※テキスト使用 総務部＋1学年 「避難所運営ゲーム～連携先：日野市社会福祉協議会、大学生ボラ ンティア等」 →事前 1学期の内容を発展させ、目的方法を学ぶ。 →体験 ゲームを体験し、災害時の地域社会と協力した都立高校 生の活躍の仕方を考える。 →事後 1学期と比較し、成果をグループ内で討議し、クラス内で 発表し合うことで共有する。	3（奉仕体験 2）		
		3 学 期	2	事前学習・体験活 動・事後学習	○【12地域社会を築く】※テキスト使用 総務部＋1学年 「身の回りの物で災害時に活用できる物を作る～連携先：日野市 社会福祉協議会、大学生、自治会等」 →体験 冊子「東京防災」を活用し、実際に災害に遭遇した時の対 処などを自治会と共同体験する。	3（奉仕体験 2）
3	演習	○【18主権者としての自覚】※テキスト使用 教務部＋1学年 「連携先：日野市選挙管理委員会又は日野税務署」 →主権者として、民主主義政治に関わる選挙の意味・仕組み又は 政治を動かす税金の意味・仕組みを学び、社会を作る一員の自 覚をもつ。	2			
	演習	【2学ぶことの意義】※テキスト使用 進路指導部＋1学年 「中央大学ガイダンス～連携先：中央大学」 →上級学校で学ぶ意義を探る。ワークシートを用い、自己理解に努 め、主体的に学ぶ姿勢を醸成する。	3			
時間数の 合計			道徳教育とキャリア教育の内容を一体化して学ぶ教科である。教 務部が連絡調整役になって、週時程外で1単位実施し、各分掌と1 学年が連携して行う。		38 （奉仕体験 16）	

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(2 学年)

学期	月	指 導 項 目	指 導 内 容	評 価 計 画	配当時間
一 学 期	4	進路希望 調査	探究的な学習を実現するため、 「①課題の設定→②情報の収集 →③整理・分析→④まとめ・表現」 の探究のプロセスを十分理解さ せる。	次の観点に基づき、評価す る。 (1)適切な課題を設定して いる。自ら学び、主体的に課 題を解決する資質や能力が 高まっている。 (2)長期休業中や放課後に 積極的に調査・研究ができ ている。 (3)学習活動に意欲的に取 組み、自己の在り方、生き方 を考える素質が養われている。 (4)自主的な学習により、学 習成果が上がっている。 (5)1年間の成果をまとめる ことができている。	1
	5	進路講演会	講師を招き、大学受験の現状を講 演してもらい、生徒個々にリサー チクエスチョンを立てる。		2
	6	大学受験の いろいろな パターンを 知る	進路部より推薦、AO 入試等につい て生徒に説明する 生徒は「進路の手引き」並びに図 書室やインターネットを活用し、 データを収集する。		2
	7	進路希望 調査 適性検査 進路講演会	キャリア教育支援ツールの実施 と自己分析 教育支援アドバイザーによるキ ャリア教育講演 生徒は興味を持った職業につい て調べ、ポスターセッションを行 う。		2 2 2
	8	オープンキ ャンパス 訪問	生徒は興味を持った大学を訪問 し、訪問記録を作成する。		8
二 学 期	9	地域研究	関西と北陸の歴史・文化・自然・ 環境等について調査し、ポスター セッションを行う。もの、ことに 関わる探究の過程において、課題 の解決に必要な知識及び技能を 身に付けるとともに、地域や社会 の特徴やよさに気付き、それらが 人々の関わりや協働によって支 えられていることに気付く。	各回ごとのレポート作成や 観察、自己評価や相互評価 により、生徒にどのような 力が付いたか上記の観点か ら評価する。	5
	10	学際的研究	大学より講師を招き、生徒に多様 な学部について説明する。		2
	11	進路講演会	教育支援アドバイザーによるキ ャリア教育に関する講演を聞く。		2
	12	中間発表	グループごとに進捗を報告し合 う。3学期は「3年0学期」にな ることを生徒に意識させる。		2
三 学 期	1	卒業生講演 会	現役合格者の話を聞き、アドバイ スを受ける。		2
	2	小論文指導	小論文作成について指導する。		1
	3	発表会・1 年間のまと め	リサーチ結果の発表 小論文の作成・完成		2
配 当 時 間 数の合計			キャリア教育を中心に据える。 週時程外で1単位実施し、進路指 導部と2学年が連携して行う。 (16名)		35

令和6年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(3学年)

学期	月	指 導 項 目	指 導 内 容	評 価 計 画	配当時間
一 学 期	4	ガイダンス	○キャリア教育を実施する ・生徒の興味・関心に基づき、適切な進路課題を設定させる。	次の観点に基づき、評価する。 (1)適切な課題を設定している。自ら学び、主体的に課題を解決する資質や能力が高まっている。	4
	5	学習活動 調査・研究	・それぞれの進路課題に基づき、職業・上級学校・学部・学科・学問分野についての調査研究を行う。方法としては、学校図書館やインターネットの活用、フィールドワーク、自己表現の工夫など、多様な方法で取り組む。長期休業中や放課後を利用した活動が出来るように工夫する。	(2)長期休業中や放課後に積極的に調査・研究ができています。 (3)学習活動に意欲的に取り組み、自己の在り方、生き方を考える素質が養われている。	4
	6				4
	7	自己評価 発表	・長期休業に向け、これまでの活動の自己評価を行いながら、ポスターセッションなどの発表を行う。一学期を振り返り、まとめる。	(4)自主的な学習により、学習成果が上がっている。	3
二 学 期	9	学習活動 調査・研究	・長期休業中に自身の活動で得た成果を確認し、進路課題設定を行い、職業や上級学校・学部・学科・学問分野についての調査研究を引き続き行う。 ・5月6月と同様に学習を継続する。	(5)1年間の成果をまとめることができています。 毎回のレポート作成や観察、自己評価や相互評価により、生徒にどのような力が付いたか上記の観点から評価する。	4
	10	学習活動 調査・研究			4
	11		4		
	12	自己評価 中間発表	4		
三 学 期	1	学習活動 まとめ 発表	・自己の具体的な進路と結びついたかどうか、成果を確認しまとめ、発表する。		3
	2				1
	3				
配 当 時 間 数の合計			キャリア教育を中心に据える。進路指導部と3学年が連携して行う。(15名)		35